Southeast Asia Regional Network

News Letter

宇都宮大学国際学部・国際学研究科同窓会東南アジア支部ニュースレター

宇都宮大学国際学部・国際学研究科同窓会東南アジア支部は、同窓会本部承認のもと2017年8月に創設されました。支部活動の一環として、東南アジア居住者のネットワークを広げる目的を掲げ2017年9月よりニュースレターを発行しています。このニュースレターが一人でも多くの同窓生に届き、ネットワークが広がっていくことを切に願っています。

VOL. 10 SEPTEMBER 2020



- 1. ご挨拶
- 2. お知らせ
- 3. 連載コーナー
- -トコロ変わればザ★談会-第3回--タイの昨今 -第10回--狙え!インスタ映え!?-第6回-
- -ともに感じる東南アジア-第6回-



いまだ世界中はコロナ禍の最中、みなさんいかがお過ごしでしょうか。どうにも憂鬱な気持ちが付きまとうそんな日々ではありますが、そんな中、おかげさまで東南アジア支部は創立3周年を迎えました。また、創立と同時に2017年9月号からスタートしたこのニュースレターもメンバーの皆さんの協力のおかげで10刊目を発行することができました。2017年の創設時に東南アジア域内に在住していたメンバーも人生の節目節目に日本へご帰国されるなどして、現在、域内メンバーはタイ2名、インドネシア2名と減少してしまいましたが、一方域外メンバーは少しづつ増えております。今回も新たに佐々木哲夫さん(1999年度入学)が仲間入りしてくださいました。今後もさらにネットワークを広げるべく、活動を続けていきたいと思います。今後ともよろしくお願いいたします. (大畑美優紀/国社95、院)





栃木県内の高校で教鞭をとっていらっしゃる佐々木 哲夫さんが仲間入りしてくれました!またニュース レターのどこかで、詳しく自己紹介を頂ける機会を



佐々木 哲夫 さん

1999年度入学/国際社会学科/藤田研究室日本(栃木県)在住

東南アジア域内ではありませんが、 栃木の空の下から東南アジアの更な る発展を祈っています!"第二の祖 国"インドネシア料理が恋しく、近 隣の群馬県大泉町へ遠征しています。

お引っ越しの

ごあいさつ

A

R

F

W







国際交流基金の日本語専門家としてラオスにてご活躍されていた田邊知成さんが、3年間の任期を終え日本に帰国されました。ラオス滞在中はこのニュースレターにたびたび登場頂きましたが、またタイにも足を運んで頂いたり、宇大の同窓会にウェブ参加頂いたりと、積極的に同窓会活動に参加頂き東南アジア支部を盛り上げてくれました。新天地でのご活躍を心よりお祈りいたします。

お隣のミャンマーからラオスに赴任してきて、同じ東南アジアの似たような部分も、また異なるものも感じてきました。ミャンマーの前にはインドに赴任していましたが、一歩一歩東に移動するなかで、徐々にインド色が薄れ、中国色が色濃くなるのを実感しました。かつての植民地時代の英領から仏領に変わったことも大きな変化として感じられましたが、食べ物、生活様式、衣装、教育制度、言語、そして共通のルーツを持ちながらも個性的なそれぞれの国の表音文字など、この10年間インド・東南アジアで体験したことは私にとって非常に興味深いものでした。

しばらく東南アジアを離れることとなりますが、この同窓会支部にはオブザーバーで残してもらえるそうなので、いつかまたこのページでもご挨拶させてください。

田邊知成(国文96、院)





トコロ変われば ザ★談会

住まいの地域事情、地域性を語り合うコーナー 🏮 3 📵



コロナ問題から半年、みなさんのお住まいの地域の状況はいかがですか?





大畑美優紀さん (タイ在住)

タイは2か月以上、国内感染者がゼロと発表されていま す。そんな中でも、外出時のマスクは必須、商業施設 入り口での体温測定に入館アプリへの登録は今でも継 続されています。学校も7月に新学期がスタートしたも のの、ソーシャルディスタンシングを保つため、30人以 上のクラスは半分に分けて1日おきの登校となっていま したが、8月半ばからその規制も解除され、通常通りの 登校に切り替わりました。とはいえ、マスクは必須、飲 料用の公共水道の使用は禁止となっています。規制解 除が進む中で、神経質になって感染予防するというよう な緊張感はなくなり気持ちも緩んでくるかなと思ってい ましたが、最近の様子を見ても、予想外にまだ気を抜 かない市民が大多数だなぁと感じます(8/17投稿)。



原理恵さん/国社98 (東京在住)

東京はいまだ感染者増えていますが、近所の街の様 子は皆さんマスクでいつもの7割ぐらいの人出です。真 夏でマスク下、熱中症どう防止するか連日報道されて ます。お盆の帰省を諦めた人も多いようです。リモート 在宅勤務、ウェブ会議が当たり前になってきました。ま た私自身、行動範囲5キロのみで半年生活を続ける中 で、家で快適に過ごす為に色々と買い足したりしました。 陽性感染数など連日報道もありますが、惑わされず自 衛モード高めて過ごすしかないのかな(海外にいった時 のように)と思っています。一大転換期、コロナ世代とい う言葉ができるのだろうな...(8/17投稿)。



生活の中で劇的な変化といえば挨拶で握手やハグが控 えられていることです。しかし握手は通常初対面や知人 の関係の挨拶なのでほぼ現在も控えられておりますが ハグやキスは親しい間柄との挨拶ということもあり今は ほぼその挨拶は戻ってきてしまいました。後は以前より 少し衛生面に気を遣うようになった感じでしょうか。マス クをすることにかなり抵抗はあったようですが、今はマス クをしても、している人を見ても皆気にせず生活している ような感じです。チェコは比較的皆さん政府の方針に素 直に従い、ある程度シチュエーションを理解しているよう ですので自由の権利を主張するような暴動もデモなく、 比較的平穏に過ごしている毎日です(8/17投稿)。

○ スプランコロナ問題に直面し、あなたの住む国の国民性を垣間見たと思います。どんな点を発見しましたか?

基本、個人主義の自由人タイ人。強制されることを嫌う と思いきや、コロナ対策に関しては政府の決めた規制に 大多数の市民がきちんと従っていて正直驚きました。今 回は、命に関わる、それも誰しもが感染する可能性があ る状況下にあり、足並みを乱す人は許されないという雰 囲気も感じるくらいでした。このことをタイ人に指摘する と、「タイ人は臆病だから」という回答が。確かに市中感 染が広がっていた頃はできるだけ人に接触しないように 行動し、巣ごもり組が増える中でデリバリーサービスも 大忙しの様子でした。臆病さが国内感染者ゼロを達成し たといっても過言ではないようです(8/17投稿)。

東京はマスク無しでは電車に乗れない雰囲気が 早々に。自然に自制の空気が生まれるのは日本ら しいと思いました。ただ、自粛警察(東京から田舎 に帰省した人や営業続ける店を匿名で咎める)の newsはなんだか悲しいです。罰則なしで「自粛」で 委ねられている反面、どうしていいわからない不安 を持っている人も多いからだと思います... (8/23投稿)。



私の住んでいるチェコ共和国はヨーロッパの中でもEUや WTOに足並みを揃えることなく、独自に状況を分析しかな り先駆けてコロナに対する対策をとった国でした。元社会 主義国ということもあり、大国や機関の指示を待っている と状況が悪化してしまったり、正確でない情報を流され翻 弄するということを過去身をもって経験していることからの 素早い独自の対応だと感じ、非常に関心し、在チェコ外国 人は比較的安心して状況を見守ることができました。国 民は不安と不満がありながらも比較的真面目に国の方針 に従い、一丸となって対策を行ってくれたため、他の西 ヨーロッパ諸国よりも被害が抑えられています(8/17投稿)。

チェコ国内のベトナム人コミュニティーに目を向けてみると、コミュニティーが一丸となり、マスクを縫っては配 り、チェコ国内至る所にあるベトナム人経営の商店では、コロナの中でも外仕事をしなければならない方々へ 無償で飲み物を配ったりと、アジア人的ホスピタリティー精神を発揮しており、チェコ人との絆を深めてコロナ 禍の不安な毎日をほっこりさせてくれました~。









長引くコロナとの闘い。全世界が同じ問題に直面する中、コロナ問題への対応、対処状況を通してそれぞれの国の国民性に新たな一面を垣間見た気がします。 早くワクチンが確立して安心して行動できる平和な日常生活が戻ってきてほしいですね。

第10回 ***タイの昨今***

皆様こんにちわ。コロナウィルスが猛威を奮っていますがいかがお過ごしでしょう か。他のコーナーでも既に話題になっているかと思いますが、タイのコロナの ニュー?ノーマルについてです。タイ政府は、世界でコロナウィルス感染が蔓延し 出した当初から緊急事態宣言を発出し、商業施設や空港などを早々に閉鎖しました。 思い切った早めの対策が功を奏して、ここ2ヶ月国内感染者はゼロ続きで、コロナ対 策において高く評価されています。政府の緊急事態宣言が出た当初は、早々と在宅 勤務(待機の人も多そう)に切り替える企業も多く、街は閑散としてバンコク名物の渋 滞知らずでした。オンラインを導入する企業も増え、時間差勤務!リモートワーク の推進!タイも働き方改革だ!渋滞もこうして緩和していくのかと毎日の渋滞に



~ 渋滞 ~

うんざりしている私には、希望の光。しかし、感染者数が横ばいになり、徐々 に規制を緩和し始めた6月。あれよあれよと言う間に交通量が増え、8月はほぼ 100%元通り。学校の再開による親御さんの送迎車と雨季(雨が降ると2倍くらい 車が増えるのかは都市伝説)で、昨今はいつも以上の渋滞です。残念ながら、バ ンコク名物の交通渋滞は今後も簡単にはなくならないなと、コロナを通して改 めて認識。渋滞を楽しむ方法を生み出せば手堅いビジネスになるかも知れない と思いついたのは、渋滞車両への飲料歩き売り。私はまだまだアナログでした とさ。どなたかビジネスアイデア待ってます!

大宮勇樹/国文06/タイ在住/8/17投稿

タイでは5月25日を最後に 帰国者以外の感染は見つ かっていませんでしたが、 6月に既に14日の隔離期 間を終え地元に戻った帰 国者2名が再海外渡航に 備え再検査を受けたところ、 陽性反応が出たという ニュース(8月20日)が世間 を騒がせました。結局、体 内に残っていたウイルスの 痕跡によって陽性反応が 出たと結論付けられました

■UPDATE(8/24)■

アジア取材雑記

第6回

~ 番外編:我々の血税で地熱大開発@ケニア ~

皆様こんにちは。東南アジアを拠点にTVディレクターをしている谷澤です。 コロナ禍の影響で、周辺国への移動がままならない日々が続きます。 今回はアフリカで撮った"インスタ映え"でお茶を濁させて下さい…。

年に一度、あえて自らに課す"アフリカ遠征"。アポが取れない!撮影を邪魔される!様々なハードルとイライラを乗り越え、取材・放送できる喜びを改めて感じるのが主たる目的です…。

2月、自分をいじめ抜くため向かったのはケニア。首都ナイロビから100⁺。ほど離れたオルカリアでは、白い蒸気が勢いよく方々から立ち上ります。ここはアフリカ最大の地熱発電地帯。再生可能エネルギーの開発を推進するケニアでは、既に電力消費の半分が地熱で賄われており、"火山国"として高い潜在力を持つはずの日本も後塵を拝しています。一方、発電所の建設や、地熱発電の中核である蒸気タービンの納入では、日本企業が大きな商機を掴んでいます。オルカリアにも、我々の税金が円借款の形で800億円以上つぎ込まれています。なぜ日本がそこまでケニアの地熱発電に注力するのか?「縦割り行政や温泉業界の反発など、ハードルが多すぎて日本では地熱開発が全然進まなかった。地熱関係者は結局、海外に出ないとメシが食えないんです(関係筋)」。はるばるケニアまで来て、迷走する祖国のエネルギー問題を知る…後味の悪い1枚になりました。###

谷澤壮一郎/国社02/インドネシア在住







東南アジアの現状、想いを共に発信していく仲間(国際学部・院同窓生)を募集しています!

東南アジア域内在住同窓生・元留学生・東南アジア域外在住で東南アジアに関わりたい、関わっていきたい同窓生(通称ファンクラブ)の皆様などなど、 興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひ事務局兼ニュースレター編集係 大畑 (miyukiohata@gmail.com)までご連絡ください。 数多くの同窓生からの声をお待ちしています!